

東都生協「東日本大震災 3.11 を忘れない作業チーム」福島視察報告

甚大な被害をもたらした東日本大震災から 13 年が経ちました。

東都生協はコロナ禍に伴い被災地の訪問を見合わせてきましたが、2024 年 3 月 7～8 日、5 年ぶりに組合員の福島訪問を再開しました。

被災地を訪問し、当時の状況と復興の過程を実際に見聞することで、自分たちには今何ができるかを考えました。

1. 【視察日程】

2024 年 3 月 7 日（木）～3 月 8 日（金） 1 泊 2 日

2. 【参加人数】

東都生協：組合員 15 人、組合員常任理事 2 人、職員 4 人

みやぎ生協・コープふくしま：ふくしま県本部 2 人 計 23 人

3. 【視察地域】

(1) 1 日目

福島県双葉郡富岡町夜ノ森周辺、JR 常磐線双葉駅周辺、東日本大震災・原子力災害伝承館、震災遺構・浪江町立請戸小学校、浪江町営大平山霊園など

(2) 2 日目

相馬市伝承鎮魂祈念館、松川浦大橋、相馬市復興市民市場（浜の駅松川浦）、飯館村「氣まぐれ茶屋ちえこ」

4. 【説明者】

(1) バス同乗説明終日

みやぎ生協・コープふくしま ふくしま県本部 穴戸義広氏、斎藤恵理子氏

(2) 飯館村「氣まぐれ茶屋ちえこ」

店主：佐々木千栄子氏、語り部：佐藤氏

5. 【視察概要】 3月7日

(1) 双葉郡富岡町夜ノ森周辺視察

桜並木と避難場所に指定されていた富岡町立富岡第二中学校跡地を視察しました。

【桜並木】



【建物の無い旧富岡第二中学校跡地】



(2) 双葉駅周辺の街並み

双葉郡双葉町の JR 常磐線「双葉駅」周辺で、崩れ落ちたお寺の門や民家など、震災当時のまま残された町並みを視察しました。

参加者アンケートより：

「7年前に伺った時と比べて復興が進んでいるのではと勝手に想像していましたが、駅や公共施設はきれいになっていても、以前より空地が多い、寂れた、荒れ果てた…という気持ちが拭い切れません」

(3) 東日本大震災・原子力災害伝承館見学

双葉町の東日本大震災・原子力災害伝承館にて、展示物の見学と動画視聴を行いました。

【津波以前の福島第1原発を再現した模型】



(4) 震災遺構・浪江町立^{うげと}請戸小学校視察

双葉郡浪江町立請戸小学校は、生徒と教職員が近くの大平山に避難し全員が無事助かった「奇跡の小学校」と呼ばれています。ただ、残された小学校の状況は想像を超えるものでした。

【建物右上の青い看板が津波到達地点（白マル印）】



【津波時の教室がそのまま】



参加者アンケートより：

「地域で大切な学校が、一瞬にして甚大な津波の被害を被り、負の遺産として残った人々の心を今に伝えている。」

(5) 町営大平山霊園の慰霊碑に立ち寄り、犠牲になられた方々の冥福を祈念

請戸小学校の生徒や職員が全員、浪江町請戸地区の高台「大平山」まで避難し、全員無事でした。震災後、大平山に新設された浪江町営大平山霊園に立ち寄り、東日本大震災慰霊碑の前で犠牲になられた方々のご冥福をお祈りしました。



6. 【視察概要 2 日目】 3 月 8 日

(1) 朝から大雪。案内していただいたみやぎ生協・コープふくしま 福島県本部の方からは「視察ではめったにないこと」と驚かされていました。

(2) 相馬市伝承鎮魂祈念館視察

相馬市伝承鎮魂祈念館にて館長のお話を聴き、動画を視聴しました。



参加者アンケートより：

「津波の映像で涙してしまいました」

(3) 松川浦大橋

相馬市の松川浦に架かる全長約 520m の海上橋、松川浦大橋で津波の高さを確認しました。津波はこの橋のたもと約 10m まで迫りました。

【橋の上から下を見る。以前は漁港】



(2) 飯館村「氣まぐれ茶屋ちえこ」

飯館村の農家レストラン「氣まぐれ茶屋ちえこ」にて、飯館村で農業を営む語り部・佐藤さんのお話を聴き、店主・佐々木千榮子さんから現在の村の様子を含めて説明を受けました。お話に涙ぐむ参加者の姿も見受けられました。

【山の中腹、雪深い場所に立地】



【左：佐藤氏、右：佐々木氏】



【中は火鉢で温かく迎えていただきました】



【食べきれないほどのお昼ご飯】



📖 参加者アンケートより：

「言葉の端々に表れる『怒り』に気おされました。最後の『それでも生きなきゃならない』という言葉が重く心に入りました」

「『関心が薄れていくことで忘れられてしまうことの危うさ』を心にとどめようと改めて思い至りました」

「辛過ぎて、まだ現実を直視できずにいます。皆さんのように行動することができるまでにはもう少し時間が必要です。福島物を買ったり遊びに来たり（経済的復興？）を意識することができると思っています。DVDの『ありがとうばかりでは辛くなる』という言葉が印象的でした」

以上